

## 六ヶ所村立郷土館 企画展

### 「今、よみがえる富ノ沢遺跡」

～日本最大級の縄文集落の盛衰の謎に迫る～

## あ い さ つ

自然豊かに恵まれた六ヶ所村には、先史時代からの数多くの遺跡があり、昭和50年代には「むつ小川原開発」により47遺跡が発掘されました。今回の企画展では、「今よみがえる富ノ沢遺跡」と題し、出土した遺物を中心に展示し、広く六ヶ所村民の皆様をはじめ村外の方々にもご紹介できることを、うれしく思っております。

富ノ沢(2)遺跡A地区からは、410棟の竪穴住居跡や土坑約1,000基、約18,600点の石器類が出土し、約500年以上続いた日本最大級の縄文の集落であったことがわかっています。今回は、円筒土器の変遷を紹介する展示と、富ノ沢集落の盛衰や新たに出現した集落の謎にせまる企画展として開催いたします。これらの展示をとおして、来館者の皆様には、縄文時代の人々がどのような思いで、ここ六ヶ所の大地で生活していたのかを、「知って、体感して」いただき、六ヶ所村の魅力の「発掘・発見・発信」につながることを願っております。

最後に、この企画展に際し、三内丸山遺跡センター副所長の小笠原雅行氏並びに東海大学教授松本建速氏に講師をお願いしたところ、ご多忙中にもかかわらず、快諾を得ることができました。改めて、この場をお借りしてお礼を申し上げます。ありがとうございました。



十字形土偶 富ノ沢(2)遺跡 A 地区出土

六ヶ所村立郷土館指定管理者

一般財団法人六ヶ所村文化振興公社

六ヶ所村立郷土館長 鈴木 浩